日本文法論

そして山田孝雄博士没後五十年

写真は東北大学史料館所蔵

刊行一〇〇周年

今年は、山田文法の創始者山田孝雄（よしお）（1875-1958）没後50周年であるとともに、同文法の出発点となった著作『日本文法論』（1908）刊行100周年に当たる記念すべき年です。山田文法は、世に言う「四大文法論」（他に、松下文法・橋本文法・時枝文法）の最初を飾るものであり、近代日本文法学の成立を告げるものと言われています。

山田孝雄は富山県に生まれ、富山尋常中学校を中退後、独力で日本語学（国語学）・国文学・日本思想史学・日本史学に亘る広大な学問領域を修め、独学の大家と言われました。1957年には文化勲章を受章しています。現東北大学大学院文学研究科国語学研究室の初代教授です（東北大学在職1925-1933）。

今回、このような山田文法を、単に過去の偉大な文法論として回顧するのではなく、現代の日本語学（国語学）における文法研究に対して今でも様々な問題を提起する、いわば「生きた文法論」として取り上げ、その過去・現代・将来に亘る長期的展望を得ることを目指してシンポジウムを企画しました。

シンポジウム

山田文法の現代的意義

2008年11月29日（土）

14:00〜17:30

東北大学文科系
総合研究棟大会義室

交通：仙台駅西口バスプール9番のりば発
「東北大川内キャンパス」バス停下車

山田文法とその後の陳述論争
大阪大学教授　仁田義雄

言語単位から見た山田文法の組織をめぐって
東北大学教授　斎藤倫明

山田文法と学校文法
大阪府立大学准教授　山東　功

文法論で問うべきことは何か
東京大学教授　尾上圭介

［司会］東北大学准教授　大木一夫

主催
東北大学大学院文学研究科国語学研究室
連絡先
東北大学大学院文学研究科国語学研究室
Tel./Fax. 022-795-5988
http://www.sal.tohoku.ac.jp/kokugogaku/index.html

東北大学